



すずき こういち
代表取締役 社長 鈴木 康一

株式会社 農園鈴福

〒014-0318
仙北市角館町中町23-2(本部)
TEL:0187-54-2191
FAX:0187-55-4633
<https://r.goope.jp/suzufukuyoumart/free/nouennsuzufuku>



H P

補助金を活用し、あの感動を再現

角館で地域密着型のスーパー「スズフク・YOUマート」を営む鈴木康一さんは10年ほど前、明治大学農学部と同級生で京都の篤農家・西村靖さんが育てたトマトを食べ、そのおいしさに強い衝撃を受ける。自社店舗での販売を熱望し、西村さんに依頼したが流通の関係上難しいという返答があった。それでも諦められなかった鈴木さんは「それなら自分たちで作ろう」と西村さんに栽培指導を懇願した。何度も断られながらも数年かけて熱意で説得し、西村さんから承諾を得たことで「農園鈴福」の設立に至った。

県の補助金「夢ある園芸産地創造事業」を活用し、コconaツツ培地に自動で養液を供給する栽培システムや、遠隔で温度・湿度を管理できるIoT設備を完備した最新ハウスを建設。困ったことがあれば、すぐにビデオ通話で西村さんへ相談。遠隔でありながらも強力な指導者によるバックアップのおかげで、昨年初めてトマトといちごの販売にこぎつけたという。

トマトといちごの完熟品をお客様に届ける

当農園では春から秋にかけてトマト、初冬から春はいちごの栽培・出荷を行う。通常の市場流通では輸送中の傷みを避けるため、未熟な状態で収穫するのが一般的だが、当農園ではいずれの作物も限界まで甘みを蓄えさせた最もおいしい状態での出荷を目指す。トマトを購入した顧客から「昔、子どもの頃に食べたトマトの味がする」と喜びの声があった。完熟ゆえに傷みや早く一般的な小売店では扱えない希少ないちごの品種「^{あきひめ}章姫」も、採れたてをそのままお店へ。評判を聞いた飲食店や菓子店などから卸販売の要望もあるが、「お店に買いに来てくださるお客様の優先順位が一番」という鈴木さんのポリシーにブレはない。

現在、自ら農園で栽培に携わりノウハウを蓄積している鈴木さん。「知識がなくても、素晴らしい指導者との繋がりを得ることで成功できるという事例を作りたい。若い世代が希望を持って稼げる農業に取り組める前例になれば嬉しい。」と語り、これからも農業の可能性を広げていく。



ハウス内の温度や湿度の調整を行うための装置。
事務所内に設置されており、操作性が高い。



色見本を参考に基準に達したものを出荷。



ハウス内にはコconaツツ培地から伸びたトマトの茎がバランス良く張り巡らされ、収穫もしやすい環境。